

まじゅつ し
魔術で死んだ？

おとこ
ロマの男



さいわ ぶんしょう すみ ゆうすけ
採話・文章：角 悠介

イラスト：いらすとや

< <https://www.irasutoya.com/> >

これは ^{わたし}私 ^がが ^{ルーマニア}ルーマニア ^でで ^き聞いた ^{ほんとう}本当 ^{のお話}のお話
です。

ルーマニアの ^{ちほう}トランシルバニア ^{地方}地方には、ル
ーマニア ^{じん}人 ^{だけ}だけではなく、ハンガリー ^{じん}人、サクソ
ン ^{じん}人、そして「ロマ」も ^す住 ^{んで}います。昔、ロ
マは ^{ばしゃ}馬車 ^{たび}で ^旅をして ^{いま}しました。彼らは「ジプシー」
とも ^よ呼 ^ばれて ^{いま}しました。

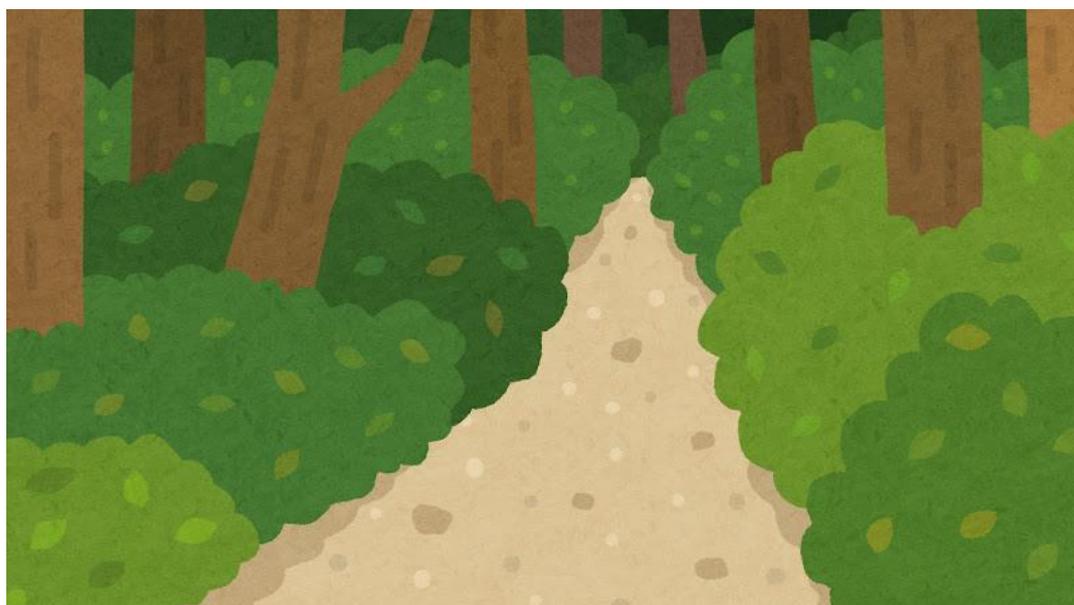


クルージュ^{けん}県のトゥルダというところに、ロ
マの村^{むら}があります。50年^{ごじゅうねん}ぐらい前^{まえ}に、村^{むら}のミハ
イという男^{おとこ}の妻^{つま}が病^{びょう}気^きになりました。お医^い者^{しゃ}
さんが来^きましたが、病^{びょう}気^きは治^{なお}りませんでした。
村^{むら}の人^{ひと}たちはミハイに言^いいました。

「ニクラという村^{むら}に有^{ゆう}名^{めい}な魔^ま女^{じょ}が住^すんでいる。

か^{かの}の^{じょ} 彼^た女^すが助^{たす}けてくれるかもしれない。」

病^{びょう}気^きの妻^{つま}を助^{たす}けるために、ミハイは娘^{むすめ}とい
っしよにニクラ村^{むら}へあ^{ある}る^い歩いて行^いきました。



なんじかん ある
何時間も歩いて、二人はやっとニクラ村に着
きました。ニクラの魔女の家の外に、一匹のカエ
ルがいました。二人を見て、カエルが言いました。
「さあ、おいで。どうして君たちがここに来た
か、知っているよ。」



ふたり はな
二人はカエルが話したので、びっくりしまし
た。家の中に入ると、魔女が二人に言いました。



「お墓^{はか}に行^いって、木^きの十^{じゅう}字^じ架^かのかけらと土^{つち}を
と取^とって、スカーフに包^{つつ}みなさい。そして、次^{つぎ}の日^ひ
の夜^{よる}に川^{かわ}へ行^いきなさい。川^{かわ}にスカーフを捨^すてて、
こ^いう言^かいなさい。『川^{かわ}のよ^{びょう}うに、病^き気^{なが}も流^{なが}れます
よ^うに！』でも、川^{かわ}に行^いくとき、ぜ^うっ^したいに後^{うし}ろ
を^み見^みてはいけません。」

これは病^{びょう}気^きを治^{なお}すための魔^ま術^{じゆつ}でした。



ふたり はか い き じゅうじ か つち
二人はお墓に行つて、木の十字架のかけらと土
をスカーフに包んで、家に帰りました。

つぎ ひ よる も ひとり
次の日の夜、ミハイはスカーフを持って、一人
で川に行きました。しかし、とちゅうで犬がミハイ
をおそいました。



ミハイは^{いぬ}犬を^{ころ}殺しましたが、^{うし}後ろを^み見てしまいました。

ミハイが^{むら}村に^{かえ}帰ると、^{むら}村の^{ひと}人たちが^ひ火のそばで^{はなし}話を^{むら}していました。^{ひと}村の人がミハイに^き聞きました。



「おや、けがをしているね。どうしたの。」

「^{じつ}実は・・・」

ミハイは^ひ火のそばに^{すわ}座って、^{じぶん}自分に^お起きたことを^{はな}話しました。しばらくして^{ねむ}眠くなったので、

むら ひと いえ かえ
村の人たちは家に帰りました。

...

つぎ ひ あさ むら ひと し
次の日の朝、村の人たちは死んだミハイをト
イレで見つけました。村では、家の外にトイレが
あります。トイレの柱はまっ赤でした。ミハイ
はトイレの柱に自分の頭を何回も何回もぶつ
けて死んだ、と村の人たちは考えています。



むら わたし い
村のおばあさんは私に言いました。

「とても悲かなしかったです。みんなミハイが好すき
でした。」

むら ひと 村の人たちはとても仲がなかいいです。私わたしは村の
だれ 誰かがミハイを殺ころしたと思おもいません。

では、どうしてミハイは死しんだのでしょうか。

まじゅつ 魔術のせいでしょうか。だれ 誰にも分わかりませ
ん。

(1036語ご)